候

旧函館奉行組同心
元開拓史生

元家禄高三俵二人扶持　　野々辺俊治

旧函館奉行より樺太詰被申付戊辰七月樺太
ニテ函館奉行（裁判所）へ引継ノ儀奉命当今

箱館ニ
[redacted]
[redacted]被申候

先般ハ布告相成候僕婢税則（内中下）婢ハ
上仕下仕ノ不論指八歳已上ハ一ヶ年金拾八
銭ト有之妾ト傳ハ此文条ニ新律ニ據ハ
妾ハ二等親ニ新ニ記載ニ其親属タル
頭数ニ（[illegible]）辛未四月被（告）仰出（費行之）
戸籍法同戸列次書式ニ中ニ於テ之中
金ク使婢ニ数ト是ハ[illegible]可有ニ存候
仍テ今般税金取立方（及ヒ）戸籍取調ニ付テハ

妾ハ婢女ニ分ツ而シテ（廢置）仕ル武俸ニ変刑ニ
傷新律中二等親ニ例シ人ヲ擬断致
死ニ彼此勘辯ニ次第ニ於ケル甚不都合
ニ付キ存寄ヲ以テ指揮ス可ク度旨
奉相伺ヒ也

明治六年四月廿日　開拓次官黒田清隆

正使

伺之趣妾ハ賦税ニ不及事

明治六年六月十九日

太政大臣三条実美印

開拓使

高札面ニ西隆ノ儀ハ一般熟知ノ事ニ付西隆ト成其跡ハ追テ後ノ御布告ヲ揭示ス各藩決テ外国ノ教法御免許ト誤ル西隆ト成リ候ニハ各之古跡ニ建ル相違ナキ様御布告ヲ揭ル迄ハ

第三十三号

正院達中

洋揭決定西隆

西隆ト称シ於蜀中新官ヲ設ケ政ヲ

重ル成リ候事。（枝同地ノ態）事情ノ因ル

進達仕リ於今ノ所西方教務

為ス方今禁門ノ外ニ於テ

（伊予ノ文上陳）

（丹後）

閑斯使